

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己(学校)評価(A~D)	
				9月	2月	評価	コメント
学力の向上	・「誰一人取り残さないための学力向上アクションプラン」に基づいた指導の実践	①毎学期2回の東京ベーシックドリル診断テスト(4・5年生は江戸川区学力定着度調査)実施・分析・強化 ②家庭学習に取り組む習慣の確立	①東京ベーシックドリル診断テスト、江戸川区学力定着度調査7割達成者70%以上(令和8年度までに)。 ②各学期2週間	C	B	C	①東京ベーシックドリル診断テストを1学期に2度行ったが、7割達成者は3年生。正答率が低い傾向の問題を強化して向上を図る。 ②家庭学習週間でどのような学習に取り組むとよいか児童に具体的に伝えた。結果を啓発資料として保護者に渡し、2学期の意識向上を図っている。
	・教員の授業力向上	①教員の授業力向上を図る研究・研修の実施	①校内研究授業 年間4回 ①ICT研修 年間3回	B	B	B	①校内研究授業を1学期に2回実施し、協議会で改善点を話し合い次の研究に生かしている。 ①ICT研修では、ミライシードの基本的な活用と、新しい機能の操作について学び、日々の学習指導に生かす教員が増えた。
	・読書科の更なる充実	①読書を通じた探究的な学習の実施・充実 ②6月学校公開での全学級読書科公開 ③朝読書の時間を取り入れ、読書に親しむ児童を育成	①週に2時間程度1人1台端末や図書館の蔵書を併用した主体的で探求的な学習活動の実施。 ②年1回 ③週2日	B	B	B	①行事との兼ね合いで、週に1時間程度となっている。週2時間を目指す。 ②計画通り、6月に全学級で読書科を公開することができた。 ③教員も共に読書することで本の世界に浸る時間を創ることができている。
体力の向上	・運動意欲の向上に向けた取組の実施・充実	①体育学習の充実 ②体力の向上 ③教員の研修の充実	①体育学習発表会の充実 ②江戸川っ子なわ跳びチャレンジ 学期1回 ②校庭遊びの奨励 ③体育実技研修 年4回	B	B	B	①教員のねらいと児童のめあてを明確にし、全学年が意欲的に取り組むことができた。 ②2学期は自主的に取り組む児童が増えるよう、音楽やカードを工夫する。 ③区や都の体育部で研究した職員が、実技研修で分かりやすく伝えている。
	・より良い学習・生活習慣の育成	①生活リズムカードの実践と分析を通して、家庭と連携しながら、児童が自分で良い生活習慣を選び、行動する力を養う。	①学期に1回実施	B	B	B	①計画通り、学期に1回実施した。児童には、学校生活全般を通し、よりよい生活習慣が身に付くよう声掛けを継続していく。
共生社会の実現に向けた教育の推進	・特別支援学級との日常的な交流	①通常学級とはこへ学級の交流授業 ②行事での連携(学年とはこへ学級で合同)	①週1回~週2回程度の交流授業。 ②交流給食、体育学習発表会、生活科・社会科見学、宿泊行事	A	A	A	①平均して、週1回以上の交流授業を行っている。 ②大きな行事のみではなく、近隣の校外学習等も共に取り組み、交流を継続している。
	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実	①巡回指導や特別支援教室専門員を活用して、効果的な指導・場面について情報共有。 ②特別支援教育研修の実施	①週に1度 ②学期1回	B	B	B	①情報共有を確実にしている。 ②計画通り実施すると共に、どのような観点で児童を見て、対応するとよいか管理職が指導している。
	・エンカレッジルームの活用促進	①エンカレッジルームの保護者への理解啓発	①保護者会などの機会を通じ、エンカレッジルームを周知。 ①HPに掲載。	B	B	B	①全体に向けた説明以外にも、個人面談や保護者から相談を受けたときに説明している。 ①2学期から掲載している。
不登校・いじめ対応の充実	・不登校対策の実施・充実	①生活指導夕会における情報の共有 ②生活指導全体会における情報の共有	①週に1度開催。 ②学期に1度開催。	B	B	B	①毎週、職員で情報共有を行っている。緊急性があるものは職員に随時周知し、全員が同じ対応をとることができるよう声掛けしている。 ②計画通り、学期に一度開催している。また、①と合わせて児童の様子を職員で共通理解し、不登校対策の充実を図っている。
	・いじめ・不登校の未然防止・早期対応に向けた取組の充実	①L-Gate「毎日の記録」の活用 ②いじめ対策委員会・不登校対策委員会の開催し、SCや巡回心理士、SSWも交えて対応策を検討する。	①毎週、変容をみとり、気になる児童へ声を掛ける。 ②月1度	B	B	B	①気になる児童へ個別に声を掛け、いじめ・不登校の未然に努めている。全児童が毎日記録を付けられるよう、指導を継続していく。 ②毎月開催し、欠席した職員にも内容を伝え、児童の様子を共有している。
地域社会に開かれた学校(園)の実現	・自校(園)の取組の積極的な発信	①学校公開の実施、学校説明会の実施 ②HPの更新	①学期1回 ②HP更新目標 校長日記→毎日 学年のページ →2週間に1度	B	B	B	①6月の学校公開で全学級が読書科を公開し、学校説明会も実施した。9月は、道徳地区公開講座を開催した。 ②校長日記は、平均して1日に1記事以上更新している。学年のページに分けず、今後も各行事を速やかにHPで伝えていく。
	・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	①学校評議員会を開催し、広く学校経営に対する意見・助言を求め。 ②行事後に保護者アンケートを行い、意見・感想を求め。 ③教員・保護者からの学校評価を行い、改善に努める。	①学期1回 ②行事ごと ③年1回	B	B	B	①第1回目は取組項目と内容について、2回目は学校と関係者の評価から、改善すべき点を協議した。 ②アンケートの内容も含め、課題点と改善案を職員で話し合い、次回につなげている。 ③実施に向けて進めている。
	・地域と連携した学習活動・体験活動の充実	①篠田堀親水緑道や江戸川の自然、生き物、歴史、環境を題材にした学習活動を行い、学習したこと、そこから生まれた疑問や分かったことをまとめ、学級や学年、異学年児童に向けて発表する活動を実施	①年1回以上の実施	B	B	B	①3年生が学習を行い、各自学んだ内容を伝え合う活動を行った。
特色ある教育の展開	・「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・会議の精選。 ・時間に対する意識の向上 ・ICTの活用 ・教員以外の人材活用と連携	①授業準備の時間を確保。 ②定時退勤の奨励。 ③月残業80時間の教員ゼロ。	B	B	B	①会議の回数と実施時間を見直し、授業準備の時間を捻出している。 ②日頃から声を掛け合い、努めている。 ③4月に比べ、減少してきた。引き続き、ゼロを目指していく。
	・異学年集団での活動の充実	①篠三まつり ②ハッピーフレンズ ③クラブ活動 ④委員会活動 ⑤登校班会議での顔合わせと登校班での登校	①9月実施 ②年間7回実施 ③年間10回実施 ④年間10回実施 ⑤4月、10月、3月実施。	B	B	B	①~⑤について、全て順調に実施している。また、回を追う毎に活動がスムーズになり、児童が主体的に行うことができていく。

重点	「中間」 学校関係者評価(A~D)		「年度末」 自己(学校)評価(A~D)		「年度末」 学校関係者評価(A~D)		次年度に向けた 改善案
	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	C	①1学期に2度の実施を続けて、他の学年の学力向上も少しずつ図ってほしい。 ②児童に具体的な学習内容を示し、家庭での取り組みを支援していることは、家庭と学校が連携して学習習慣を育てるうえで大変有意義である。	B	①東京ベーシックドリル診断テストの結果が各学年上がり、7割達成は3年と4年が70%以上となった。 ②ドリルパークや自主学習を行う児童数が増えた。次年度も学年+10分の家庭学習を行えるよう取組を継続していく。	A	診断テストの結果にて、具体的に児童に指導するなどの取り組みをしたことにより、成果向上につながっていると考える。自主学習を行う児童が増えたことは、先生の工夫と指導の成果と感じている。	定期的にテスト形式の内容に取り組み、弱点に対する個別最適化(補習・再テスト)を図る。また、学習内容の具体例や段階別課題を提示し、家庭学習の意識や意欲を高める。
	B	①校内研究授業を計画的に実施し、協議を通して改善点を次の授業づくりに生かしている点を評価している。 ②ICTを進めようと教員同士が学び合い、授業の質向上に努めている姿勢が伝わってくる。	B	①校内研究授業を4回実施した。改めてどの教科も学習指導要領を基にねらいや評価を考え、教材研究することの大切さを学んだ。 ①同じ単元でもミライシードの活用方法を変えるなど、児童の実態を基に学習指導に生かす教員が増えた。	B	研究授業を重ねていて、教員の意識向上につながっていると感じた。ミライシードも活かされていることが伝わってきた。	今年度の学びを次年度当初から生かし、研究内容をより深めていく。ICT研修を定期的に行い、新しい学習者用端末の効果的な使い方を学んでいく。
	B	①週1時間の読書科を継続して実施している点を評価している。 ②学校公開で、様々な学年や学級の取り組みをしていることが伝わった。 ③教員自身も共に読書することで、落ち着いた読書環境を創っていると考える。	B	①図書館バーコード化が終了し、探究的な学習をする環境が整った。 ②計画通り、6月に全学級で読書科を公開することができた。 ③教科の単元に関する本をブックトラックに準備し、様々な分野の本を読む児童が増えた。	A	図書館のバーコード化はとても良い。本を読む児童が増えたのは、工夫と環境が整った成果だと感じる。	年間学習指導計画に則り、探究的な学習の準備(図書館との連携)を早くから進めておく。朝読書では、教師も共に読書を楽しむ姿勢を継続して見せていく。
体力の向上	B	①学習の方向性が共有され、児童の主体的な姿勢につながっていると感じる。 ②児童が自主的に運動するよう、工夫を続けてほしい。 ③研究を校内で伝えることは、学校全体の指導力向上に大きく貢献していると考えられる。	B	①達成済み。 ②取り組み習慣が終わっても、休み時間やすくすくで縄跳びを自主的に練習する児童が増えた。 ③実技研修以外にも、普段から体育学習の指導をすすんで学ぶ職員が増えた。	B	自主的に取り組む児童が増えたのは素晴らしい結果である。教員もすすんで学ぶのは、とてもよいことだと思う。	体育学習におけるねらいとめあての共有を徹底し、学習効果を高める。体育実技研修で教員の指導力向上を図り、運動が楽しいと思える児童を増やす。
	B	①児童によりよい生活習慣を身に付けさせるよう、継続して声掛けを行っている点を評価している。	B	①学校生活では、よい言葉遣い、物の整理整頓、話し合いの仕方、聞き方なども年間を通して指導した。意識をもつ児童が増えたので、次年度も継続する。	B	言葉遣いや整理整頓は大切であり、意識する児童が増えることは、落ち着いた学校生活につながると考える。聞く力は、児童にとって大事である。	生活リズムカード、学校生活上での基本的な生活習慣の指導など、児童が自ら生活を振り返り、改善できるような取り組みを行う。
共生社会の実現に向けた 教育の推進	A	①交流授業は、児童同士の関係づくりに良い影響を与える。 ②行事や近隣への校外学習など日常的な活動でも共に取り組み、継続的に交流を深めている点を高く評価したい。	A	①学習発表会で共にグループ学習を行い、練習、発表する学年もあった。 ②学習だけでなく、ウインター行事では生活班も一緒にグループで編成を行い、協力して過ごすことができた。	A	学習発表会など学校行事を通じて、互いに支え合うことを学んでいると感じた。	交流授業やグループ活動の頻度を維持・拡大し、児童同士の関係構築をさらに深める。
	B	①学校職員が連携し、児童へのよりよい支援につながっていると感じる。 ②児童への具体的な見取りや対応について、管理職が指導している点が心強い。	B	①巡回指導教員から、各児童について情報を担任に報告している。指導のポイントを日常に取り入れることで、児童の成長が見られた。 ②次年度も、学びを生かしていく。	B	教職員間の情報共有により、児童の成長に繋がっていると聞いた。	特別支援専門員が校内の授業観察を行い、巡回指導を通常の指導に取り入れ、より高い効果を得られるよう心掛ける。
	B	①丁寧に説明して理解を深め、家庭との連携を大切にしている姿勢が伝わってくる。 ①HPで情報発信することで、保護者が学校の取組を把握しやすくなる。	B	①3学期はエンカレッジサポーターの配置を増やし、児童が安心して過ごす環境を整えることができた。 ①達成済み。	A	保護者への説明や体制の充実により、児童が安心して学校生活を送れる環境が整っていると思う。	エンカレッジサポーターの配置を適切に行い、必要に応じた支援を迅速に行う仕組みを維持する。
不登校・いじめ対応の充実	B	①不登校児を出さない、早期対応しようとしている学校の姿勢を感じる。 ②学期に一度、日頃の情報共有と合わせて児童を見つめ直し、職員で共通理解している点が心強い。本校の不登校の傾向があれば、そこを改善すると良いと思う。	B	①担任以外にも、エンカレッジルームの活用状況も周知し、児童が教室に行きやすい環境創りに励んだ。 ②児童が何に悩んでいるか、前向きに登校できるようにするため職員がどのように対応すればよいか等を共通理解してきた。次年度も継続する。	B	教職員間で情報共有により、児童に寄り添った対応を心掛けていると感じた。	生活指導夕会や全体会での情報共有を継続・強化し、児童の状況を全職員で共通理解し、対応する。また、エンカレッジルームの環境整備も進める。
	B	①児童は、個別に声を掛けられることで安心すると思うので、ぜひ続けてほしい。 ②SCや巡回心理士、SSWも交えて検討することは、視野が広がるので大変良い。	B	①L-Gateの「毎日の記録」を活用する職員が増えた。次年度は、児童全員が継続して取り組めるよう目指す。 ②SC、SSWと毎週連携を取り、定期的に登校できる児童が増えた。	B	声掛けや記録、情報共有、SSWとの連携により、登校できる児童が増えたことは素晴らしいと思う。今後、取組を続けてほしい。	L-Gateの双方向化を進め、児童の悩みや不安に早期に気付く、前向きに登校できるよう支援を行う。SC、SSWとの連携を密にしていきたい。
地域社会に開かれた 学校(園)の実現	B	①学校公開が学期に1回あることで、学校の取組が分かりやすく発信されている。 ②校長日記で行事や児童の様子を速やかに発信している点が、保護者にとって大きな安心につながっている。	B	①計画通り実施し、年間を通し様々な教科を公開するよう配慮した。 ②校長日記は全学級を網羅し、継続して1日に1記事以上更新することができた。次年度も、行事や学校生活の様子について迅速に情報を発信していく。	A	授業公開やお便り、HPなどを通して、学校の様子が分かりやすく伝えられていると感じた。保護者も安心すると思う。	学校公開や学校説明会を計画的に実施し、授業や取組の内容を幅広く保護者に伝える。情報発信の方法や頻度を振り返り、より効果的な発信手段を検討する。
	B	①継続的に見直しを行い、学校運営の質の向上につなげていきたい。 ②課題と改善策について、職員一人一人がしっかり考えをもって話し合ってもらいたい。 ③計画通りに実施してもらいたい。	B	①日頃の児童の様子、体育学習発表会や学習発表会、教職員の取り組みについて、協議を活発に行うことができた。 ②保護者からの意見と児童の実態を合わせ、次年度の行事に向けて改善点をまとめている。 ③課題について、建設的な意見を出し合って次年度の計画を決定している。	B	保護者からの意見は感情的になりがちだが、本質を見極めることが重要である。	行事後の保護者アンケートを継続し、課題や改善点を必ず次回に生かしていく。学校評議員会や職員から挙がった意見や評価を整理し、本質的な課題に基いた改善を優先して進める。
	B	①3年生が地域と関わりながら学習し、学んだ内容を互いに伝え合う活動を行っている点を評価している。これからも地域と連携した体験を通して、児童の学びが深まっていくことを願っている。	B	①学年の学習以外にも、環境委員会が篠田堀親水緑道の清掃を計画し、児童の意識が高まった。	A	自分が生まれ育った場所や今、住んでいる地域への愛着や誇りをもつ教育が必要であると思う。	地域の自然や歴史、環境を題材とした学習・体験活動を継続的に実施し、発表の機会を設ける。地域との連携をさらに深め、学習体験を通して児童の探究心や地域理解を促進する。
特色ある 教育の展開	B	①会議の回数や時間を継続して見直ししてほしい。 ②全員が定時退勤を目指してほしい。 ③4月に比べて長時間勤務の教員が減少していることに前進を感じる。	B	①担当者が起案を練っておき、会議を短時間で終わらせるよう努めている。 ②4月より定時退勤する職員が増えた。 ③月末に声を掛け合い、月残業80時間の教員ゼロを達成した。	B	時間より内容、仕組みと考える。	会議の精選と時間管理を継続し、授業準備や教育活動の時間を確保する。外部人材の活用を計画し、実行していく。
	B	①～⑤について、異学年での活動を年間計画どおり順調に実施している点を評価している。また、回を重ねるごとに成長が見られるのは、大きな成果だと感じている。	B	①～⑤について、異学年での活動を年間計画どおり順調に実施している点を評価している。また、回を重ねるごとに成長が見られるのは、大きな成果だと感じている。	A	委員会や他学年との交流を通して、名前を覚え、名前を呼ぶ取り組みは、将来役に立つと考える。大変重要だと思うので、続けていただきたい。	篠三まつり・ハッピーフレンズ・クラブ・委員会活動など、異学年活動を年間計画どおり継続する。担当者がねらいを明確にもち、事前、事後指導を行う。